

名古屋大学レクチャー2016 公開講演会



持続可能な社会への道 — 戦後公害の歴史的教訓から —

2016.
11/19 土

会場: **名古屋大学豊田講堂**

時間: **13:00 - 15:40**

主催: **名古屋大学** 共催: **中日新聞社**

協力: **名古屋大学リーディング大学院「PhDプロフェSSIONAL登龍門」**

【申込締切】 2016年10月31日(月)必着
※当選者には折り返し連絡いたします。

【申込方法】 住所・名前・年齢・職業(学校名、学年)・電話番号・希望人数(本人含む)を明記の上、郵送(〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学高等研究院宛)でご送付ください。はがき、1人1枚とします。名古屋大学高等研究院ホームページ(<http://www.iar.nagoya-u.ac.jp/>)やQRコードからも申し込みいただけます。



プログラム

12:30~ 開場

13:00~ 開会の挨拶 (名古屋大学総長 松尾 清一)

13:05~ 解説講演
戦後日本公害史と“宮本経済学”の意義
帝京大学経済学部教授・一橋大学名誉教授 **寺西俊一**



13:30~ 名古屋大学レクチャー橋 贈呈式

13:45~ 休憩

14:00~ 名古屋大学レクチャー
持続可能な社会への道
— 戦後公害の歴史的教訓から —
大阪市立大学名誉教授・滋賀大学名誉教授 **宮本憲一**



15:30~ 閉会の挨拶 (高等研究院長 篠原 久典)

*進行状況により終了時刻が多少前後する場合があります。

参加無料

どなたでも参加できます

名古屋大学レクチャー2016に関するお問い合わせは

名古屋大学高等研究院 TEL.052-788-6153

4 6 4 - 8 7 9 0

千種局承認

9082

差出有効期間
平成30年3月
31日まで

名古屋市千種区不老町

名古屋大学
高等研究院事務室 行

名古屋大学レクチャー 2016参加申込書

氏名	ふりがな	
郵便番号	職業・所属	1. 中・高校生 2. 大学生 3. 社会人 4. その他
住所	※該当する番号に○をつけてください	
	希望人数	名(本人含む)
電話番号	FAX番号	
E-mail		

イベント情報の提供(E-mailのみ) 希望する 希望しない
*全ての欄にご記入ください

申し込み方法

WEB <http://www.iar.nagoya-u.ac.jp>

携帯電話 携帯用QRコード ▶

上記Webページにアクセスしていただき、
申込フォームより、申してください。郵送 左記に必要事項を記入し、郵送(別紙も可)
してください(1応募4名様)

応募多数の場合は、抽選にて、参加者を決めさせていただきます。
ご参加いただける方には、はがきにて通知させていただきます。
※通知はがきのない方の入場は出来ません。

名古屋大学は、イベント等へお申し込みいただいた方個人に関する情報(以下、「個人情報」といいます)について、個人情報保護法及び関連するその他の法令・規範を遵守し、適切な保護と厳正な管理に努めます。

なお、名古屋大学は一般の方を対象としたイベントを随時開催していますので、希望される方には可能な限りE-mailによりイベント情報をお送りします。希望される方は、左記にチェック願います。

申込締切 2016年10月31日(月)必着

交通のご案内

地下鉄名城線「名古屋大学」駅下車、2番出口すぐ
駐車場は準備していませんので、公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ

〒464-8601 名古屋大学 高等研究院

TEL(052)788-6153

ホームページ <http://www.iar.nagoya-u.ac.jp>電子メール iar@adm.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学レクチャー2016

持続可能な社会への道 — 戦後公害の歴史的教訓から —

「名古屋大学レクチャー」は、名古屋大学にゆかりのある最高水準の研究者を招いて講演をしてもらい、一般市民の方に学問の先端「知」に触れて頂くものです。

本年度は、環境問題について経済学の立場から研究をされている宮本憲一先生にお願いをしました。先生は名古屋大学経済学部を卒業されてから研究生活に入られ、環境経済学という新しい学問分野を開拓し、発展させてこられました。この分野の第一人者です。その成果が認められ、2015年度の日本学士院賞を受賞されています。

日本は第2次大戦による廃墟の中から出発し、高度経済成長を経て先進国の仲間入りをしてきました。しかし、その過程は平坦ではなく、四大公害(水俣病、新潟水俣病、神通川イタイイタイ病、四日市ぜんそく)を初めとした多くの公害を生みました。一時多くの工業地帯は、煤煙で埋め尽くされ、青空が見えない時代が続きました。被害者となった市民・住民は、訴訟を提起することによってその告発をしてきました。名古屋新幹線公害訴訟、名古屋南部公害訴訟など、この地も例外ではありません。宮本先生は、こうした市民運動や訴訟に支援の手をさしのべてきました。

1970年代以降に生まれた若い人たちは、こうした負の歴史を知らないかも知れませんが、今の日本の環境があるのも、こうした先人たちに依るところが大きいと言えるでしょう。環境問題は、地球温暖化といった形でも重要なテーマです。どうしたら公害をなくし、環境を保全する持続可能な社会が作れるのでしょうか。

宮本先生に、こうした課題へのアプローチについて語って頂きます。